

退任挨拶

前副会長

田 中 信 義



皆さん、こんにちは。この2年間日本知的財産協会の副会長という任を務めてまいりましたけれども、これでやっと卒業できるという状況になりました。この間、皆様には本当にお世話になりました。この場をお借りして御礼を申し述べさせていただきます。

私が本協会の副会長の任につく2年前、2002年に知的財産戦略会議が開催され、その年の11月に知的財産基本法が制定されました。そして、2003年3月には内閣に知的財産戦略本部が設置され、その年の7月に「知的財産の創造、保護及び活用に関する推進計画」が出され各方面関係者のご尽力により実行に移されるとともに、その後毎年その計画の改訂が図られてきました。このような知的財産関係者にとって激動の時代に、副会長という重責を負わなければいけないという状況であったかなと思っております。2003年3月からの3年間に知的財産関係の法律改正というのは実に22回あるんだそうでございますけれども、まさに私ども知的財産関係者にとりましては、非常に大きく変わったという時期にその任に当たったわけでございます。

かつて、私が日本知的財産協会に参加し始めましたときは、いかに知的財産の重要性というものを経営トップに認識させるかということが重要な課題であったわけでございます。しかしながら、現在では既に経営トップを飛び越しまして、日本国全体が知的財産の重要性というものを徐々に認識し始めている状況になっているのだらうと思っております。まだ、会社によりましては、そうではないぞというところがあるかもしれませんが、そういう会社というのはだんだん遅れをとってくるんじゃないかと思っております。いずれにしましても、現在では新聞等でどんどん書き立ててくれますので、そういう意味では、経営トップに認識させる課題というのは、皆さんにとりましても小さくなってきているのかなという感じがいたします。

それに代わりまして、今度は、ブランドの向上ですとか、営業秘密の管理ですとか、あるいはノウハウの管理ですとか、そういう新たな課題が増えてきていると思っております。これは、かつては欧米に対する知的財産戦略が非常に大きな比重を占めていたわけでございますけれども、最近になりまして、急速な発展を遂げているアジア各国に対しても同時に考えて行かなければいけないという背景があるからと考えております。21世紀というのは知的財産重視の時代であるということが言われておりまして、皆さんの仕事もますます忙しくなる、もちろん忙しくなるだけではなくて責任もどんどん重くなっていくのではないかなと思っております。

私はこれで日本知的財産協会の副会長の任を卒業させて戴くわけですが、引き続きキヤノンの中では知的財産法務本部を担当いたします。こちらの方はなかなか卒業するわけにもいきませんの

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

で、先に述べました新たな課題に引き続き取り組んでいく所存でございます。非常に大きな課題ですが、ぜひ皆さんと一緒に対処していきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。本当に2年間ありがとうございました。

